

2010 - 2011年度
(2010年7月1日～2011年6月30日)

ACM日本支部活動報告

2010 - 2011年度(2010年7月1日～2011年6月30日) 活動報告

1. ACM国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区予選東京大会開催

(ACM International Collegiate Programming Contest, Asia Regional Contest 2010 in Tokyo)

(1) 国内予選報告

実施日時: 2010年7月2日(金) 16:30～19:30

参加資格: 1チームは選手3名(学生)とコーチ(教員あるいは大学院生)1名.

選手学生の資格は, 大学・大学院・高等専門学校(4・5年生)・短期大学に在籍していること, ACM-ICPC 地区大会出場が5回未満であり, 世界大会出場が2回未満であること, 1987年以降に生まれたか, 2006年以降大学・短期大学に初めて入学したこと(なお, 高等専門学校およびその卒業生は4年次進級時を大学入学とみなす).

実施方法: インターネットを利用し, 各所属校より参加.

使用言語: C++, C, Java

問題: 全6問. 設問は英語が主であるが, 日本語も併記.

参加校(括弧内は複数チームの場合の参加チーム数): 計67校287チーム

会津大学(9), 明石工業高等専門学校(2), 秋田大学(5), 一関工業高等専門学校(1), 愛媛大学(4), 大阪大学(5), 大阪工業大学(2), 大阪電気通信大学(2), 大阪府立大学(3), 岡山理科大学(1), 香川大学(4), 神奈川工科大学(7), 金沢工業大学(3), 関西学院大学(6), 九州大学(3), 京都大学(6), 京都工芸繊維大学(7), 京都産業大学(9), 熊本高等専門学校(3), 久留米工業高等専門学校(2), 慶應義塾大学(3), 高知工科大学(1), 神戸市立工業高等専門学校(2), 神戸大学(1), 公立はこだて未来大学(3), 国立東京工業高等専門学校(1), 埼玉大学(5), 静岡理工科大学(6), 湘南理工科大学(4), 信州大学(8), 鈴鹿工業高等専門学校(2), 専修大学(2), 崇城大学(2), 千葉大学(3), 中央大学(8), 中部大学(1), 津田塾大学(7), 津山工業高等専門学校(2), 電気通信大学(5), 東京大学(12), 東京工科大学(9), 東京工業大学(11), 東京情報大学(4), 東京都市大学(1), 東京都立産業技術高等専門学校(2), 東京理科大学(2), 同志社大学(1), 東北大学(7), 東北学院大学(1), 獨協大学(4), 豊橋技術科学大学(3), 長岡技術科学大学(1), 長崎大学(1), 奈良女子大学(1), 新潟国際情報大学(10), 日本大学(5), 広島大学(4), 福井大学(1), 福島大学(5), 北海道大学(7), 三重大学(9), 明治大学(5), 山梨大学(3), 立命館大学(15), 龍谷大学(4), 和歌山大学(4), 早稲田大学(5)

結果: 予選通過については, 同一校からの参加枠制限(東京大会ルール)のために, 枠外のチームは成績が上位でも予選落ちとなる. また, 海外登録の香港城市大学チームが辞退したため東京大学Gakenoboriチームを追加した. 予選上位2チームを他のアジア地区予選に派遣することとし, 予選1位の東京大学USAGI Codeは12月3～5日開催の高雄大会(台湾)で2位(全問正解)となった. 予選3位の東京工業大学40010は11月30日～12月1日開催のジャカルタ大会(インドネシア)に参加した.

(2) ACM-ICPC 東京大会概要

開催日: 2010年12月11日(土)～13日(月)

場所: 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

主催: ACM-ICPC 東京大会実行委員会, 国立情報学研究所, ACM 日本支部

後援: 文部科学省, 総務省, 経済産業省, (独)科学技術振興機構, (独)理化学研究所, (社)情報サービス産業協会

協賛: (社)情報処理学会, 日本ソフトウェア科学会, (財)情報科学国際交流財団

日本アイ・ビー・エム(株), キヤノン(株), グーグル(株), KLab(株), グリー(株), (株)シンプレクス・コンサルティング, (株)ディー・エヌ・エー, 日本電信電話(株), (株)モルフォ, 楽天(株), (株)リンクレア, (株)NTTデータ, (株)構造計画研究所, (株)ソニーコンピュータサイエンス研究所, 日本電気(株), (株)ビーエスピー, 富士通(株)

委員関係:

実行委員長: 本位田真一(国立情報学研究所)

副委員長: C. J. Hwang(Texas State University, アジア地区ディレクター)
石川冬樹, 鄭顕志(国立情報学研究所)

実施委員: 馬場雪乃, 福地大輔, Johan Nystrom-Persson(以上東京大学)

審判長: 田中哲朗(東京大学) 副審判長: 鎌田十三郎(神戸大学)

審判: 石畑清(明治大学), 稲葉一浩(国立情報学研究所), 笠原雅弘(東京大学), 鴨浩靖(奈良女子大学), 久野靖(筑波大学), 久保田光一(中央大学), 小宮常康(電気通信大学), 佐藤健吾(東京大学), 柴山悦哉(東京大学), 新田善久(津田塾大学), 増原英彦(東京大学), 松崎公紀(高知工科大学), 山口文彦(東京理科大学), 脇田建(東京工業大学)

審判アドバイザー: 近山隆(東京大学)

組織委員: 阿草清滋(名古屋大学), 今井浩(東京大学), 上嶋明(岡山理科大学), 岡野浩三(大阪大学), 篠原歩(東北大学), 竹島卓(金沢工業大学), 田胡和哉(東京工科大学), 程京徳(埼玉大学), 富永浩之(香川大学), 西村俊和(立命館大学), 馬場敬信(宇都宮大学), 藤田聡(広島大学), 松永賢次(専修大学), 南弘征(北海道大学), 峯恒憲(九州大学), 美馬義亮(公立はこだて未来大学), 村上昌己(岡山大学), 毛利公一(立命館大学)

事務局: ACM-ICPC2010東京大会運営事務局(国立情報学研究所)

E-mail: icpc-japan-local2010@nii.ac.jp

ACM日本支部事務局

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-10-7 グローリア宮益坂 805

Tel.03-5766-3643 Fax.03-5766-3642

E-mail: office@acm-japan.org URL: <http://www.acm-japan.org>

大会ホームページ: <http://icpc2010.honiden.nii.ac.jp/>

出場校: 30校35チーム(括弧内はチーム数)

会津大学(1), 大阪大学(1), 九州大学(1), 京都大学(2), 久留米工業高等専門学校(1), 慶應義塾大学(1), 神戸大学(1), 埼玉大学(1), 信州大学(1), 鈴鹿工業高等専門学校(1), 津山工業高等専門学校(1), 電気通信大学(1), 東京大学(4), 東京工業高等専門学校(1), 東京工業大学(2), 東北大学(1), 豊橋技術科学大学(1), 長岡技術科学大学(1), 奈良女子大学(1), 広島大学(1), 北海道大学(1), 明治大学(1), 立命館大学(1), 早稲田大学(1), Korea Advanced Institute of Science and Technology(1)-韓国, National Chiao Tung University<国立交通大学>(1)-台湾, National Taiwan Normal University<国立台湾師範大学>(1)-台湾, National Taiwan University<国立台湾大学>(1)-台湾, National University of Singapore<シンガポール国立大学>(1)-シンガポール, Shanghai Jiaotong University<上海交通大学>(1)-中国

基本ルール:

- ・学生3名1チーム
- ・コンテスト中の公用語は英語
- ・プログラミング言語はC++, C, Javaの中から選択
- ・マシンはチームに1台用意され, 資料の持ち込みは自由(ただしマシン読み取り可能なものは除く)
- ・設問に対し, 正しく動くプログラムを作成した数(正解数)の多さを競う

- ・同数の場合は、提出までの所要時間の短さで判定される
- ・誤答はペナルティとして時間がプラスされる

(3) 東京大会実施内容

場所： 学術総合センター 2階 中会議場

(開会式・オリエンテーション, トライアルコース, Javaチャレンジ, コンテスト)

同センター 3階 レストラン (歓迎会)

同センター 12階会議室 (コーチワークショップ, 問題解説, Java Challenge対戦, 表彰式)

レストラン・ディナギャン (懇親会)

宿泊 サクラホテル神保町 (国内地方チーム), YMCAアジア青少年センター (海外チーム)

期間： 12月11日(金) ~ 12月13日(月)

内容： 12月11日(第1日目)： 受付, 開会式, トライアルコース, Javaチャレンジ, 歓迎会・夕食

12月12日(第2日目)： コンテスト, コーチワークショップ, 問題解説, Javaチャレンジ対戦,
表彰式・閉会式, 懇親会

12月13日(第3日目)： エクスカーション(車窓見学および企業見学)

(4) 競技結果： (1大学1順位)

1位 東京大学(USAGI Code) 10問正解

2位 Shanghai Jiaotong University(Luminer) 9問正解

3位 Korea Advanced Institute of Science and Technology (RoyalRoader) 9問正解

(5) 世界大会への派遣および結果

当初世界大会は、2011年3月にシャルム・エル・シェイク(エジプト)で開催される予定であったが、治安悪化のため急遽場所・日程の変更があり、2011年5月27~31日にオーランド(アメリカ)で開催された。1位東京大学、4位京都大学が世界大会に出場し、結果はともに5問正解で27位となった。

本件の収支会計については ICPC 東京大会として ACM 日本支部とは別途決算を行った。収入は ICPC 協賛企業からの協賛金および ACM 本部(アメリカ)からの開催補助金の総額 8,541,398 円、支出は総額 8,069,476 円となった。

2. 会議への派遣

目的： ACM-ICPC 運営に関する会議への参加

派遣期間： 2011年5月27~31日

派遣先： オーランド(アメリカ)

対象者： 石畑清(明治大学, ACM-ICPC 委員), 峯恒憲(九州大学, ICPC2011 福岡大会実行委員長)

3. セミナー関連

ACM-ICPC 補助事業として、ICPC 東京大会予選上位チームおよび世界大会進出チームへの特別強化合宿セミナーを福澤太(東京工業大学)、北川宜稔(東京大学)らが中心となって開催した。

期間： 2010年9月17~20日

場所： 国立オリンピック記念青少年センター(渋谷区代々木)

4. ACM-ICPC アジア地区予選福岡大会開催準備

2011年度 ACM-ICPC のアジア地区予選の1つとして、九州大学がホスト機関となり、福岡大会の開催

準備を始め、選手募集ポスターおよび募集案内を作成し、全国の大学の情報系学科長・高等専門学校校長宛および関係各署 400 ヶ所に 2011 年 4 月 25 日に発送した。過去最多の 70 校 311 チームが参加して行われた国内予選の結果、21 校 28 チームが本選に駒を進めた。

(1) 登録：2011 年 6 月 10 日締切り 登録数 70 校 311 チーム

(2) 国内予選の開催

日時：6 月 24 日(金) 16 時 30 分～19 時 30 分

インターネットおよび電子メールを利用して各チームの所属大学にて実施。

問題数は 7 問(英語での出題を主とし、日本語を併記)

大会ルールに基づき 21 校 28 チームが選抜された。

(3) 福岡大会

場所：九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市西区元岡 744)

11 月 12 日(土)：トライアルユース, Java チャレンジ, 歓迎会

11 月 13 日(日)：コンテスト, コーチワークショップ, 表彰式

11 月 14 日(月)：エクスカージョン

(4) 委員

実行委員長：峯恒憲(九州大学)

実行副委員長：亀井靖高(九州大学)

審判長：鎌田十三郎(神戸大学)

(5) 大会案内ホームページ

<http://icpc2011.ait.kyushu-u.ac.jp/ja/home>

5. CACM 日本語版刊行

ACM の学会誌である「The Communications of ACM」(CACM)の特集記事を翻訳し、賛助会員には日本支部 Web ページ(<http://www.acm-japan.org>)から限定閲覧、ACM 個人会員には ACM Digital Library での閲覧とした。なお、記事および翻訳監修者の選定については、CACM 編集委員会(委員長:山名早人<早稲田大学>, 委員:奥乃博<京都大学>・伊藤貴之<お茶の水女子大学>・建部修見<筑波大学>)に一任した。

CACM 日本語版第 21 号

発行時期：2011 年 6 月

タイトル：「2009 年度・2010 年度和訳セレクト記事」

- ・ 視点：計算機科学分野における研究評価
- ・ 携帯電話のある教室：排除せず活用を
- ・ カンファレンス論文の採択率とインパクト
- ・ Web 2.0 技術がもたらすビジネスインパクト

出典：CACM 2009 年 4 月号, 2010 年 6 月号, 12 月号

監訳：山名早人(早稲田大学)

6. 会議の共催および協賛の承認

以下の会議への協賛を承認した。

(1) 第 4 回津田塾大学女性研究者支援センターシンポジウム

「ICT 分野で国際的に活躍できる女性人材の育成を考える:アジアの事例を中心に」

開催日: 2010 年 9 月 23 日

場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス津田ホール(東京都新宿区)

主催: 津田塾大学

(2) 第 5 回津田塾大学女性研究者支援センターシンポジウム

「テクノロジー分野で働く女性のためのネットワーキング」

開催日: 2010 年 12 月 4 日

場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス津田ホール(東京都新宿区)

主催: 津田塾大学

(3) 第 18 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ(FOSE2011) in 浅虫温泉

開催日: 2011 年 11 月 24 ~ 26 日

場所: 海扇閣(青森県浅虫温泉)

主催: 日本ソフトウェア科学会「ソフトウェア工学の基礎研究会」

プログラム委員長: 門田暁人(奈良先端科学技術大学院大学), 上野秀剛(奈良工業高等専門学校)

(4) WMUTE2012 & DIGITEL 2012 in 高松

7th IEEE International Conference on Wireless, Mobile and Ubiquitous Technologies in Education
& 4th IEEE International Conference on Digital Game and Intelligent Toy Enhanced Learning

開催日: 2012 年 3 月 27 ~ 30 日

場所: かがわ国際会議場およびサンポートホール高松(香川県高松市)

主催: IEEE Technical Committee of Learning Technology

代表: 垂水浩幸(香川大学)

7. 共催および協賛会議の開催

以下の協賛会議が開催された。

(1) 第 4 回津田塾大学女性研究者支援センターシンポジウム

「ICT 分野で国際的に活躍できる女性人材の育成を考える:アジアの事例を中心に」

開催日: 2010 年 9 月 23 日

場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス津田ホール(東京都新宿区)

主催: 津田塾大学

(2) INTERSPEECH 2010

開催日: 2010 年 9 月 26 ~ 30 日

場所: 国際会議場 幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)

主催: International Speech Communication Association(ISCA)

実行委員長: 広瀬啓吉(東京大学)

(3) 第 17 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ(FOSE2010) in 越後湯沢

開催日: 2010 年 11 月 18 ~ 20 日

場所: 越後のお宿 いなもと(新潟県南魚沼郡)

主催: 日本ソフトウェア科学会「ソフトウェア工学の基礎研究会」

プログラム委員長: 高田眞吾・福田浩章(慶應義塾大学)

(4) 第 5 回津田塾大学女性研究者支援センターシンポジウム

「テクノロジー分野で働く女性のためのネットワーキング」

開催日：2010年12月4日

場所：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス津田ホール(東京都新宿区)

主催：津田塾大学

8. 賛助会員企業

東芝ソリューション(株)，日本アイ・ピー・エム(株)，日本電気(株)，富士通(株)，(株)リコー
キヤノン(株)，(財)電力中央研究所

9. 2010-2011 年度収支決算

2010年7月1日～2011年6月30日

単位：円

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
収入の部				
1. 賛助会費収入	1,500,000	1,100,000	400,000	賛助会員企業7社
収入合計(A)	1,500,000	1,100,000	400,000	
前期繰越収支差額	3,832,836	3,831,156	1,680	
収入合計(B)	5,332,836	4,931,156	401,680	
支出の部				
1. 年次総会・講演会開催	340,000	0	340,000	RCD 会議に派遣 選手強化合宿費用
2. 学会誌翻訳出版	310,000	202,520	107,480	
(1) 翻訳料	300,000	200,000	100,000	
(2) 雑費	10,000	2,520	7,480	
3. プログラミングコンテスト補助	630,000	839,071	209,071	
(1) 委員派遣費	300,000	430,555	130,555	
(2) セミナー開催費	250,000	283,054	33,054	
(3) 会議費	60,000	86,090	26,090	
(4) 雑費	20,000	39,372	19,372	
5. 管理費	430,000	228,526	201,474	
(1) 旅費交通費	50,000	44,010	5,990	
(2) 通信運搬費	300,000	124,216	175,784	
(3) 会議費	50,000	5,500	44,500	
(4) 雑費	30,000	54,800	24,800	
支出合計(C)	1,710,000	1,270,117	439,883	
当期収支差額(A)-(C)	210,000	170,117	39,883	
次期繰越収支差額(B)-(C)	3,622,836	3,661,039	38,203	

以上